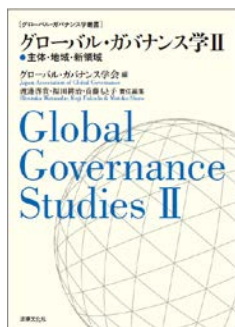


● 『グローバル・ガバナンス学叢書 グローバル・ガバナンス学Ⅱ 主体・地域・新領域』

グローバル・ガバナンス学会編／渡邊啓貴・福田耕治・首藤もと子責任編集

2018年2月刊行予定

A5判・横組・上製・総頁数280頁 ISBN 978-4-589-03881-4



《国際秩序のあり方に着目し、見取り図を描く》

グローバル・ガバナンスに係る制度化の進展と変容をふまえ、多様な主体の認識と行動、地域ガバナンスとの連携および脱領域的な問題群の3部に分けて課題を検討。グローバル・ガバナンス学会5周年記念事業の一環として、研究潮流の最前線を示す。

■ 目次

はしがき

略語一覧

1 主体——グローバル・ガバナンスに関わる主体の多様化

第1章 国際連合一国連安全保障理事会に関するアカウントビリティの関係の解明 [蓮生郁代]

第2章 地域集団防衛から安全保障グローバル・ガバナンスへ—米欧安全保障共同体(NATO・EU)の収斂プロセス [渡邊啓貴]

第3章 BRICSと国際金融ガバナンス—挑戦と逡巡の間で [和田洋典]

第4章 NGOと子ども人権ガバナンス—日本への影響の事例検討 [大森佐和]

第5章 イスラーム世界のグローバル・ガバナンス—OICとサブナショナルなアクターの挑戦 [山尾大]

2 連携——方法としての地域機構との連携

第6章 グローバル・ガバナンスにおけるUNとEUの役割—国連気候変動制御プロセスを事例として [福田耕治]

第7章 ASEANと国連—補完的関係の進展と地域ガバナンスの課題 [首藤もと子]

第8章 国連とOSCEの東部欧州ガバナンス [宮脇昇]

3 展開——新領域におけるグローバル・ガバナンスの課題

第9章 人の移動をめぐるガバナンス [坂井一成]

第10章 グローバル・エイズ・ガバナンスとアフリカ [牧野久美子]

第11章 サイバーセキュリティ [土屋大洋]

第12章 テロリズムの原因と対策 [宮坂直史]

終章 地球を覆い尽くすガバナンス体系—ジオ・ガバナンスの複合構造からみて [山本武彦]

索引